

学校教育目標

心豊かな児童の育成

研究主題

自ら課題を見つけ、主体的・協働的に学ぼうとする児童の育成
～ 話し合い活動を通して ～

学校経営理念

令和2年度から新教育課程が全面実施となった。これから、小学校教育は大きく変わっていくとしており、今、スタート地点に立っている。社会の急激な変化とともに、読解力・読解力の課題、プログラミング教育、少子高齢化、働き方改革などの対応すべき課題も多く見られる。また、Society5.0時代の到来を見据え、答えが用意されていない問題に問いを立てて解決する子どもの育成も求められている。そのために、今後更にチーム学校の取組を徹底し、確かな学力、豊かな人間性、心身共に健康なバランスのとれた児童の育成を図る。

学校経営方針

・チーム学校の構築を目指す(協働意識を強め合う教職員集団)
・全ての児童の学びを支える学習指導を通して、学力・体力の向上を図る。
・自他ともに認めあう集団作りを通して、児童の人権意識、道徳的規範意識の向上を図る。
・学校と地域が連携した教育活動を展開する。

中期計画<令和2年度～令和4年度>

Table with 5 columns: 知, 徳, 体, 横断, and 評価. Each column contains specific goals and action plans for the 2020-2022 period.

短期計画【知】

目標<単年度の到達指標>		目標達成に向けた取組		中間検証 <4～8月の取組を検証>	評価	年度末検証 <到達指標の達成状況を検証>
項目 <振計>【担当】	項目 <振計>【担当】	◇具体的な取組	◆取組の評価指標			
1 年 目 【 令 和 2 年 度 】	<p>○基礎学力の向上と、活用力、問題解決能力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知県学力定着状況調査の正答率が、昨年度の同学年平均がそれ以上となる。標準学力検査の正答率が7%以上となる。 <p>○総合的な学習の時間や生活科を活かしたカリキュラムマネジメントを行う。</p> <p>○「考えが広がった・深まった・話し合っってよかった」と実感できる話し合い活動により、自分の考えを再構築することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童を対象にしたアンケートの対話の項目平均が3.6となる。 <p>○読書が好きという児童が増加し、年間目標冊数が増加する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートで、「本を読むことが好き」の肯定的回答が80%以上となる。年間目標読書冊数の達成率が92%以上となる。 <p>○家庭学習の質と量を向上させ、授業に生きる家庭学習を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年で取り組む家庭学習時間達成率の全校平均が85%以上となる。 	<p>< I 2 (1) >【学習部】</p> <p>< III 1 (2) >【学習部】</p> <p>< III 2 (1) >【学習部】</p> <p>< I 1 (2) >【学習部】</p> <p>< I 1 (3) >【学習部】</p> <p>< II 1 (2) >【学習部】</p> <p>< IV 1 (1) >【学習部】</p> <p>< V 1 (2) >【1年担任】</p> <p>< I 1 (3) >【学習部】</p> <p>< IV 2 (2) >【学習部】</p>	<p>1. 教師の授業実践力の向上と話し合い活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇国語科を中心とした授業研究の実施 ◇単元構想図で単元のゴールと学習の流れを児童と共有 ◇県内で実施される研修会への参加 ◇ICTを活用した授業の実施 ◇プログラミング教育に関わる研修の受講 ◇OJT「ちよこ塾」の計画と実施 <p>2. 児童の基礎学力の向上と探求的な学びの育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇朝学習や帯タイムの継続 ◇学校支援ボランティアの協力による放課後加力の実施 ◇生活や総合的な学習の時間における学習のまとめ方の工夫 ◇個人カルテをもとにした個別指導 ◇教科カリキュラムに基づいた各教科や領域、行事等での学校資源や地域人材の活用と見直し ◇スタートカリキュラムの活用と見直し <p>3. 図書館活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇読み聞かせボランティアによる読み聞かせの実施 ◇各教科や領域等での図書館資料の活用を推進 ◇各学年で毎日図書への借り換えの有無を調べる。月ごとに個人の読書冊数を集計する。 <p>4. 家庭学習の質と量の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇「義務教育9年間の家庭学習の手引き」を活用する。 ◇自主学習ノートの展示を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆全学年公開で、年間6回以上実施する。 ◆国語科をはじめ、他教科でも活用する。 ◆研究発表会(夏季・冬季)や他校の授業づくり講座に参加する。 ◆授業で電子黒板を活用し、発達段階に応じてタブレットを使う。 ◆校内研に講師を招聘し、研修を実施する。 ◆若年教員を対象とし、月2回を目安に行う。 <ul style="list-style-type: none"> ◆朝学習は算数、帯タイムは漢字、NIE、月1回の辞書引きを実施する。 ◆年間20回程度を計画し、実施する。 ◆模造紙や巻物、絵本等、様々なやり方で学習をまとめている。 ◆各学期末に個人カルテの進捗状況を共有する。 ◆各学年で学校林・ビオトープの活用や保育所・宅老所等との連携を図る。教科カリキュラムを加筆修正し、学期に1回、共有する。 ◆スタートカリキュラムの活用と次年度に向けた修正を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ◆週に1回、朝学習の時間に各学年で読み聞かせを実施する。 ◆各学期末に学校図書館活用の取組を共有する。 ◆各学期末に、個人で定めた学期の目標読書冊数達成率が92%以上となる。 <ul style="list-style-type: none"> ◆5・9・1月の生活調べで家庭学習時間達成率の伸び率を検証する。 ◆各学年1名の自学ノートを日替わりで教室前に展示する。 		
2 年 目 【 令 和 3 年 度 】	<p>○基礎学力の向上と、活用力、問題解決能力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査の正答率が、全国平均がそれ以上となる。高知県学力定着状況調査の正答率が、昨年度の同学年平均がそれ以上となる。標準学力検査の正答率が78%以上となる。 <p>○総合的な学習の時間や生活科を中心としたカリキュラムマネジメントを行う。(発信・交流)</p> <p>○「考えが広がった・深まった・話し合っってよかった」と実感できる話し合い活動により、自分の考えを再構築することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童を対象にしたアンケートの対話の項目平均が3.7以上となる。 <p>○読書が好きという児童が増加し、年間目標冊数が増加する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートで、「本を読むことが好き」の肯定的回答が85%以上となる。年間目標読書冊数の達成率が94%以上となる。 <p>○家庭学習の質と量を向上させ、授業に生きる家庭学習を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年で取り組む家庭学習時間の達成率が90%以上となる。 					
3 年 目 【 令 和 4 年 度 】	<p>○基礎学力の向上と、活用力、問題解決能力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査の正答率が全国平均以上、高知県学力定着状況調査の正答率が昨年度の同学年平均以上、標準学力検査の正答率が80%以上となる。 <p>○総合的な学習の時間や生活科を中心とした探求的な学びの育成</p> <p>○「考えが広がった・深まった・話し合っってよかった」と実感できる話し合い活動により、自分の考えを再構築することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童を対象にしたアンケートの対話の項目平均が3.8以上となる。 <p>○読書が好きという児童が増加し、年間目標冊数が増加する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートで、「本を読むことが好き」の肯定的回答が90%以上となる。年間目標読書冊数の達成率が96%以上となる。 <p>○家庭学習の質と量を向上させ、授業に生きる家庭学習を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年で取り組む家庭学習時間の達成率が93%以上となる。 					

短期計画【徳】

目標<単年度の到達指標>	目標達成に向けた取組		中間検証 <4~8月の取組を検証>	評価	年度末検証 <到達指標の達成状況を検証>
	項目 <振計>【担当】	◆具体的な取組			
1年目 【令和2年度】 ○「学校が楽しい」と感じる児童が96%以上となる。 ○道徳意識調査の「自尊感情」の項目で80%以上、「家庭との連携」の項目で75%以上となる。 ・「高知の道徳」の活用、体験活動とかかわらせた道徳の授業の充実 ○「考え議論する」道徳の授業の研究 ・授業チェックシートの「授業構成」「発問」「時間配分」「板書」の項目が75%以上となる。 ・道徳教育推進教師が公開授業を1回実施する。	< I 2(6)>【人権主任】 【生徒指導】 < I 2(4)>【人権主任】 【道徳教育推進教師】 < IV 2(1)(2)> 【道徳教育推進教師】 < I 1(2)>< I 2(1)> 【道徳教育推進教師】	1. Q-U調査アンケートの実施と、要支援群の児童への支援 ○開発的、予防的な生徒指導の実施 2. 「自尊感情」「家庭との連携」の項目向上への手立て ○道徳意識調査の実施と分析 ○人権・道徳参観日での人権・道徳の公開授業と、「高知の道徳」の活用 ○保護者や地域の方をゲストティーチャーに活用 3. 道徳の授業力の向上 ○道徳推進教師による公開授業の実施 ○授業力チェックシートの実施・分析	◆年間2回のQ-U調査アンケートの実施と、PDCAサイクルシートを活用する。 ◆要支援群の児童へのかわり方を全体で確認し、開発的、予防的な生徒指導の取組を夏季休業中に全体で確認する。 ◆道徳意識調査を年間3回実施し、分析・考察、取組を全体で共有する。 ◆道徳教育推進教師が「高知の道徳」の活用例を示し、活用の仕方を夏季休業中にブロックごとに教材研究する。 ◆1学期中(7月ごろ)に道徳教育推進教師が公開授業し、事後研究をする。 ◆授業力チェックシートを年間3回実施し、分析、考察、取組を全体で共有する。 ◆「構成」「発問」「時間配分」「評価の仕方」について夏季休業中に研修会をする。		
2年目 【令和3年度】 ○「学校が楽しい」と感じる児童が97%以上となる。 ○道徳意識調査の「自尊感情」の項目で82%以上、「家庭との連携」の項目で78%以上となる。 ・「高知の道徳」の活用、体験活動とかかわらせた道徳の授業の充実 ○「考え議論する」道徳の授業の研究 ・授業チェックシートの「授業構成」「発問」「時間配分」「板書」の項目が82%以上となる。 ・道徳の研究授業をブロックごとに年間1回以上行う。					
3年目 【令和4年度】 ○「学校が楽しい」と感じる児童が98%以上となる。 ○道徳意識調査の「自尊感情」の項目で85%以上、「家庭との連携」の項目で80%以上となる。 ・「高知の道徳」の活用、体験活動とかかわらせた道徳の授業の充実 ○「考え議論する」道徳の授業の研究 ・授業チェックシートの「授業構成」「発問」「時間配分」「板書」の項目が85%以上となる。 ・道徳の研究授業をブロックごとに年間2回以上行う。					

短期計画【体】

目標<単年度の到達指標>	目標達成に向けた取組		中間検証 <4~8月の取組を検証>	評価	年度末検証 <到達指標の達成状況を検証>
	項目 <振計>【担当】	◆具体的な取組			
1年目 【令和2年度】 ○児童の体力向上を図る。 ・体力テストのD-E判定の児童の割合を25%以下を維持する。 ・5年の体力テストの総合得点で全国平均以上を維持する。 ・個人到達目標の体力に関する項目で85%の達成を目指す。 ・水泳では、到達目標未達成児童を全校で10名以内にす。 ○基本的な生活習慣の確立を図る。 ・早寝の達成88%を目指す。	< I 2(7)>【学級担任】 < I 2(7)>【体育主任】 < I 1(4)>【体育主任】 < IV 2(2)>【生活部会】 < IV 2(2)>【学級担任】	1. 体力向上を図る ○スポーツテストを実施する。 ○運動会の課題種目に1学期から取り組む。 ○朝礼で体育的活動を実施する。 ○個人カルテの体力項目に取り組む。 ○体を動かす場の設定として元気アップコーナーを実施する。 ○休み時間に体育館を開放してバスケットボールができる環境の設置 ○外部講師による専門的な技術を学ぶ機会を設け、体力の向上を図る。 2. 基本的な生活習慣の確立 ○生活習慣定着への取り組みを継続する。 ○選徳科や学級会で早寝について話し合う。 ○朝の健康調べで早寝についてチェックする。	◆スポーツテストの結果改善の体力アップ75プログラム、体力向上のための取り組みハンドブック等を活用した授業提案を10月のスポーツテスト(5・6年)で検証する。 ◆運動会の課題種目を全員ができるようにする。 ◆柔軟性や俊敏性を養う活動を朝礼に取り入れる。 ◆個人カルテの体力項目の達成率85%以上を目指す。 ◆全員が外遊びを1日1回以上を目指す。 ◆スポーツテストの「跳躍力」の項目で5ポイント以下を20%以下にする。 ◆水泳の技術向上のため、外部講師による技術指導を行う。 ◆学期一回生活がんびりカードを実施し早寝定着率88%を目指す。 ◆学期に1回、選徳科や学級会で早寝について話し合う。 ◆朝の健康調べで毎日早寝について調べる。		
2年目 【令和3年度】 ○児童の体力向上を図る。 ・体力テストのD-E判定の児童の割合を25%以下にする。 ・5年の体力テストの総合得点で全国平均以上を維持する。 ・個人到達目標の体力に関する項目で88%の達成を目指す。 ・水泳では、到達目標未達成児童を全校で10名以内にす。 ○基本的な生活習慣の確立を図る。 ・早寝の達成72%を維持する。					
3年目 【令和4年度】 ○児童の体力向上を図る。 ・体力テストのD-E判定の児童の割合を15%以下にする。 ・5年の体力テストの総合得点で全国平均以上を維持する。 ・個人到達目標の体力に関する項目で90%の達成を目指す。 ・水泳では、到達目標未達成児童を全校で5名以内にす。 ○基本的な生活習慣の確立を図る。 ・早寝の達成75%を維持する。					

短期計画【横断】

目標<単年度の到達指標>		項目		目標達成に向けた取組		中間検証 <4~8月の取組を検証>	評価	年度末検証 <到達指標の達成状況を検証>
		<振計>【担当】		◇具体的な取組	◆取組の評価指標			
1 年 目 【令和2年度】	<p>【いじめ・不登校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内支援会を月1の割合で実施し、教職員で共有する。 ・SC等専門機関とつながり、家庭や児童に組織で対応する。 ・不登校児童0人の維持と遅刻児童の遅刻回数を40%減とする。 ・「いじめは絶対いけない」を100%、「学校の先生は話を聞いてくれる」を99%にする。 <p>【防災】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・志和地区での津波避難訓練を実施する。 ・行政を巻き込んだ防災学習の日を実施する。 ・年間6時間以上の計画的な防災学習の実施と、1回以上の防犯教室を実施する。 <p>【働き方改革】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期に2回は教科や取組で地域の人材を活用した学習をする。 ・会議は時間内に終了する。 ・水曜日の一斉退庁日を実施する。 ・直後反省会と直後プランの保存をする。 ・学年・教科別の教材の保管が30%増になる。 	<p><II2(1)>【支援会】 <I4(4)>【支援会】</p> <p><横断1(1)>【全学年】</p> <p><I2(6)>【全学年】</p> <p><W3(3)>【全学年】</p> <p><横断2(3)>【全学年】</p> <p><横断2(2)>【全教職員】</p> <p><横断2(1)>【全教職員】</p> <p><横断2(2)>【全教職員】</p>	<p>1. 支援会の充実とSCとの連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇校内支援会の実施 ◇専門機関との繋がり強化 ◇生活アンケートの定期的な実施 ◇児童理解を深める <p>2. 防災学習の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇津波避難訓練の実施 ◇防災学習の実施 ◇防災学習週間の内容の充実 <p>3. 働き方改革の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇地域人材の活用 ◇会議の短縮化 ◇直後プランの作成・保存 ◇定時退庁日の実施 ◇教材・教具のストック 	<ul style="list-style-type: none"> ◆月1回の割合、各学年3回の校内支援会を実施(SCもできるだけ参加)する。 ◆SC以外にもSSWや心の教育センター、療育センター等の専門機関とも繋がり、適切なアドバイスを下に課題のある家庭や児童に組織的に対応する。 ◆学校生活アンケートを年間3回実施し、その結果を踏まえ、有効な手立てに取り組む。 ◆軽微ないじめを軽視せず、子どもに寄り添い解決し、組織での見守り支援を強化する。 ◆年間1回、志和地区へ津波避難訓練に行く。 ◆防災学習の日(危機管理課の協力を仰ぐ)を実施する。 ◆「高知県安全教育プログラム」を活用した年間5時間の防災学習の内容を共有し、系統的な学習へとつなげていく。 ◆地域人材を活用し、教科指導や取組の充実を図る。 ◆時間配分を意識し、終了時間を明確にした会議を実施する。 ◆行事後すぐに反省会をもち、直後プランを作成し、フォルダにデータ保存する。 ◆毎週水曜日は定時退庁を実施する。 ◆資料室の棚やパソコン上にストックした教材を、学年・教科別に取り出しやすくストックしていき、30%増にする。 				
	2 年 目 【令和3年度】	<p>【いじめ・不登校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SC参加の校内支援会を月1で実施し、教職員での共有が定着する。 ・SC等専門機関との連携が進み、児童の見取りを深め、組織で対応する。 ・不登校児童0人の維持と遅刻児童の遅刻回数を60%減とする。 ・「いじめは絶対いけない」の100%維持、「学校の先生は話を聞いてくれる」を99%にする。 <p>【防災】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主防災組織を巻き込んだ志和地区での津波避難訓練を実施する。 ・行政・保護者を巻き込んだ防災学習の日を実施する。 ・年間6時間以上の計画的な防災学習の実施と、1回以上の防犯教室の実施が定着している。 <p>【働き方改革】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期に2回は教科や取組で地域の人材を活用した学習をする。 ・会議は時間内に終了出来ており、会議の回数の見直しが進んでいる。 ・水曜日の一斉退庁日が定着している。 ・直後反省会と直後プランが定着している。 ・学年・教科別の教材が50%増で保管でき、すぐ使える状態になっている。 						
	3 年 目 【令和4年度】	<p>【いじめ・不登校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SCを含めた校内支援会を月1で実施し、共通理解、組織的な対応が定着する。 ・SC等専門機関との連携で児童理解が深まり、組織的な対応が定着する。 ・不登校児童0人の維持と遅刻児童の遅刻回数を80%減となる。 ・いじめは絶対いけない「学校の先生は話を聞いてくれる」を共に100%にする。 <p>【防災】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政と自主防災組織の協力を得た志和地区での津波避難訓練が定着している。 ・行政・保護者・自主防災組織を巻き込んだ地域密着型の防災学習の日が実施できている。 ・年間6時間以上の防災学習が系統的内容で実施され、1回以上の防犯教室の実施で児童の自主防災意識が高まっている。 <p>【働き方改革】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材バンクリストを更新し、教科や取組で学期に2回以上の地域の人材を活用した学習が定着している。 ・全ての会議が就業時間内に終了し、食の全体回数の1割減が実現している。 ・直後反省会と直後プランの定着で協力体制が進んでいる。 ・各自の退庁時間が明確化され、水曜日以外にも定時退庁が実現できている。 ・学年・教科別の教材のデータや掲示物等が80%増で整備され、活用できている。 						